

平成24年度第3回廃棄物減量等推進審議会議事録

期日：平成25年2月20日（水）

場所：多治見市役所5階全員協議会室

主席委員：伊藤会長、谷口副会長、長谷川委員、坂崎委員、近田委員、坪井委員

欠席委員：加藤（誠）委員、安藤委員、林委員、加藤（誠二）委員、相原委員、白石委員

事務局：水野環境文化部長、岡田環境文化部次長、伊藤環境課長
市川課長代理、田中主査、原主査

議題

- ① 第2次一般廃棄物（ごみ処理）基本計画の策定について（最終決定）
- ② 平成25年度多治見市一般廃棄物処理実施計画の決定について
- ③ 生ごみ処理機購入の助成制度利用者へのアンケート結果について
- ④ その他

1 開会挨拶

環境文化部長挨拶

2 議題

議題①

（第2次一般廃棄物処理計画の策定について、資料に基づき事務局より説明）

（会長）パブリックコメントの意見もなく、「て、に、を、は」等の軽微な変更とのことであるが、改めてご意見はあるか。

（委員）P1の「はじめに」の部分について、文章の言い回しを検討したらどうか。（4点）

- ① 1行目から2行目：「昨今の廃棄物をめぐる社会情勢は、」の主語に対して、述語「・・・動きが活発化しています。」となっているが、不自然ではないか。そんなに活発化しているのか？
- ② 5行目：「産業廃棄物の不法投棄などの大規模不適正処理事件の頻発」となっているが、そんなに多いのか？
- ③ 6行目：「深刻化する自治体財政の中での」と「高度処理の必要性」では文章が繋がらないのではないのか？
- ④ 9行目：「昭和58年という早い時期から」とあるが、欧米と比べれば「早い」とは言えないと考える。どこと比べて早いのか？

（会長）「昨今の廃棄物をめぐる社会情勢は」のところについて、ご意見あるか？

(事務局)

1行目から2行目については、文章を修正する。

5行目の頻発は削除する。

6行目についても、文章を修正する。

9行目については、過去に市民の協力を得て、分別に取り組んできた経緯があることから、この言い回しにした。海外と比べると、早い時期からではないかもしれないので、「国内他市に先駆けて」などの表現に修正する。

(会長) 表現については、事務局で再度検討をしていただく。他はいかがか？

(委員) P2の5行目「仕組みを提示しています」も誰に提示しているのか？「作成した」ではいけないのか？

(事務局) 市民と事業者に提示したという意味で使用している。

(会長) 前回の審議会で、「予測」、「目標」、「計画」という言葉を区別したらどうかという意見が出たと思うがこの点については、変更されていないようだが、いかがか。

(事務局) この計画は、MAXの状態のごみ(予測)を、施設で適正処理すること(目標)を設定したもの。ごみの減量(計画)の結果を反映した「予測」や「目標」にしなくても良いのかとの趣旨の意味だったと思うが、その点は整理して記載したつもり。組成分析の結果や循環型システム構想のC段階を達成するための数値目標については、追加した。

(会長) 基本計画の修正等は、これでよろしいか。ご承認いただけると思うが良いか。

(各委員) はい。

(会長) それでは、これで基本計画について、決定する。

今後のスケジュールはどのようなか？

(事務局) 内部での決裁を経て、告示し、皆さんにお示しすることになる。

ホームページにも掲載します。

議題②

(平成25年度多治見市一般廃棄物処理実施計画の決定について、資料に基づき事務局より説明)

(会長) 平成25年度の実施計画ということで、具体的な数値も含めお気づきの点があったらお願いします。

(委員) 25年度(計画)の1人1日平均排出量(生活系のみ)の数値が、24年度の計画数値より4g多くなっているのはなぜか。

(事務局) 21年度から23年度の実績の平均。23年度は水害もあり、排出量が増加したことによるもの。

(委員) P7の中間処理計画の堆肥化センターの公称能力があるが、現在動いているものなのか?目標なのか?実績等は記載しないのか。

(事務局) これは、施設の能力なので、実績ではない。実績については、「多治見市の環境・廃棄物」を見ていただくことになる。

(会長) P7の(1)は、施設の概要、(2)は搬入される廃棄物の搬入者別の内訳は見込みか。

(委員) (2)の部分に堆肥化センターの搬入量見込みを記載したらどうか。

(事務局) 記載するように検討したい。

(会長) P10の重点的に取り組むごみ減量施策について、ご意見があれば伺いたい。エコレッジは、どういうものか。

(事務局) 県の森林環境税を基に県が基金を作ったので、その補助を受けて実施する事業。今年度は、準備期間で来年度から具体的に実施していく。子どもだけではなく、一般を対象とした各分野の環境講座の実施を検討している。講座を通して将来の指導者の発掘と育成も図れないかと考えており、既存の活動や講座をメニュー化して提示していくことも検討している。

(委員) 学童保育とタイアップするのもいいと思う。

(委員) 学童保育という意見がでたので紹介したいと思うが、私は、学童保育とタイアップして、毎月1回「田んぼの学校」というものを行っている。種まきから収穫までを体験してもらおうという活動で、今年で7年目になる。子どものうちから環境意識を高めることに貢献していると思っている。

体験した子どもたちが、農業高校や農業大学へ進学したなどの話を聞いている。

(事務局) 既存の活動については、継続していただき、その情報を共有しながら、新たな講座を関係団体と連携して、実施していきたいと思っている。

(会長) 県からのサポートもあるのか？

(事務局) 何年補助金をいただけるかは、分からないが、少なくとも立ち上げからの数年間は、補助をいただけるよう申請している。

(会長) 充実した環境教育につながるように知恵を出し合いたいと思う。

(委員) 食改協も学童保育とタイアップして、料理を通した環境教育をやっている。

(会長) 小型家電の収集について計画に掲載がないが、収集方法などについて記載しなくて良いか。

(事務局) 25年4月以降も収集方法に変更がないが、実施していくことを実施計画に記載する。

(会長) それでは、P7と小型家電の収集を追加していただくことで、平成25年度の実施計画を決定したいと思う。

議題③

(生ごみ処理機購入の助成制度利用者へのアンケート結果について、資料に基づき事務局より説明)

(会長) 今の説明で疑問な点はないか。

(委員) 25年度の実施計画でも、補助金制度の見直しとあるが、見直しの方向性はどのように考えているのか。

(事務局) 現時点では方向性を決めていない。アンケートの結果をよく分析して、方向性を検討したい。

(委員) この補助は個人向けの補助であるが、地域への補助は、今後検討されるのか？例えば、ごみステーションに処理機を設置し、地域のみんなで堆肥を使うということはどうか。

(事務局) 生ごみを減らさなければいけないという課題は認識しているが、全国的に大勢の方が使用する処理機には、いろいろなものが混ざってしまい難しいと聞いている。ビニールなどが入ると堆肥としては、利用できない。笠原町でモデル事業をやったが、分別の徹底やにおい等の問題があり、3年で取り止めた経緯がある。

生ごみを減らすための施策として、啓発や堆肥物の利用方法等、この補助制度も減量策の一つの方策として継続したい。

(委員) 集合住宅を対象に、生ごみ処理機を設置して、管理人等に管理してもらったらどうか。

(委員) 以前、生活学校で検討したことがあったが、上手くいかなかった。

(委員) 笠原町では、ダンボールコンポストの利用が盛んである。

(会長) アンケートを有効に利用していただき、見直しをしていただきたい。

(事務局) 次回は、県の分別収集計画の見直しについて、審議していただきたいので、4月下旬から5月上旬を予定している。

午後2時55分閉会